

日立市中里レジャー農園サポーター制度の導入による果樹産地の活性化

常陸太田地域では、農業担い手の高齢化や後継者不足が進展しています。そこで、この状況を打開するため、日立市中里地区を対象として、普及センターが市、JA、果樹生産部会等に働きかけ、市民参加の援農制度「中里レジャー農園サポーター」を平成22年に発足させ、中山間地域の果樹産地の活性化を進めています。

■ 中里レジャー農園サポーター協議会の設立 ■

市、JAと生産者に援農制度を理解してもらうため平成21年に新潟市の先進事例を調査しました。その結果を基に規約等を作成し、平成22年5月に、生産者と関係者で構成する中里レジャー農園サポーター協議会を設立して、サポーター15名、受入れ生産者10戸で活動を開始しました。



生産者と関係者で検討会



サポーターによるブドウの袋かけ作業

■ サポーター活動支援 ■

サポーター制度の特徴は、①通年活動、②登録期間は1年間、③完全無償等です。

普及センターが現地指導や日程調整、市がサポーターとの連絡調整、JAが生産者との連絡調整を分担しました。また、サポーター全員に、随時「なんでも報告書」を記入してもらい、制度の改善を図りました。平成23年度は、14戸の農家で24人のサポーターがブドウの袋かけ作業や収穫作業など延べ715回の活動を行いました。

■ 今後の課題 ■

生産者は、労力的に大変助かっているほか、応援してくれるから良い物を作りたい等、営農意欲が高まっています。また、消費者（サポーター）の視点を取り入れる事で販売方法の改善を図る等、産地の活性化にも繋がっています。

今後、制度を長く続けていくために、農家主体の運営へと誘導していく事が課題となっています。



生産部会の講習会にはサポーターも参加可能